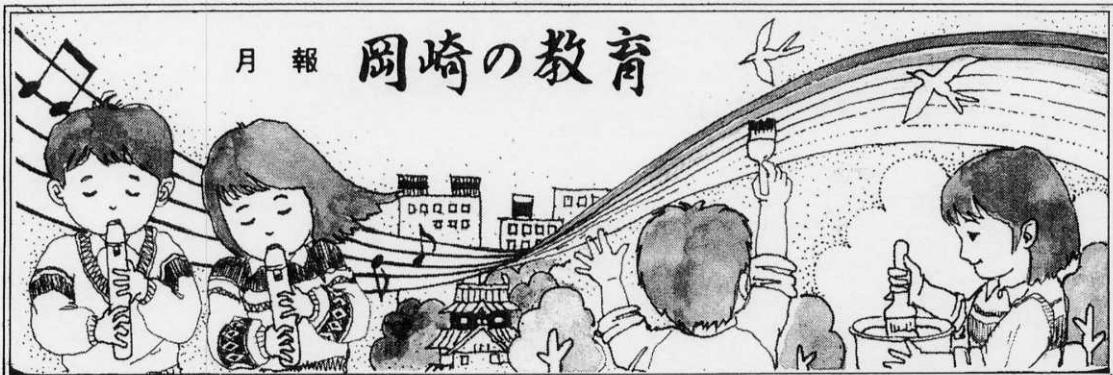


月報 岡崎の教育



2月号

平成元年2月1日
発行 / 編集
岡崎市教育委員会

大きな響きを残して

子供たちは

一斉にかけ出して行った。

冷たいアスファルトの歩道に

力強いリズムがきざまる。

冬枯れの野鳥の森

応援の声

赤く上気してくる顔

丘の上の学校は目の前に見えるのに

登る坂道は長い。

「精一杯」

最後の力をふりしぶって

校門に入る子供たちの顔には

言葉通りにがんばった満足感があふれる。

確かなもの

それは

子供たちの足音

大地をける音

大地をふむ一步一步

厳しい冬の後には春が待っている。

玄関わきの梅の花の蕾もふくらんできた。

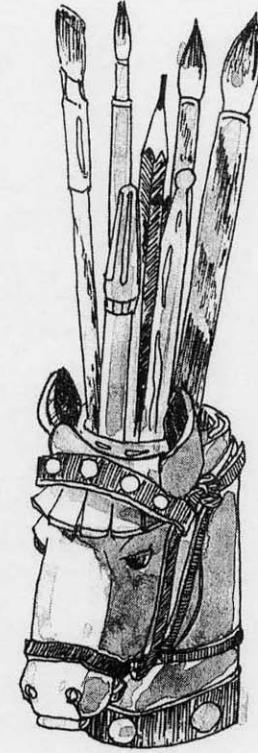
(足音)



(耐寒かけ足一 竜美丘小)

一 想 隨 教 育

生涯學習の時代を迎えて



脇坂正典

臨時教育審議会は昭和六十二年八月教育改革に関する第四次答申(最終答申)を提出し、今後における教育改革の推進の方策を示した。臨教審が示した教育改革推進のための基本的考え方は、「個性重視の原則」、「生涯學習体系への移行」、「変化への対応」(国際社会への貢献・情報社会への対応)の三つを柱としており、この視点から「生涯學習体制の整備」など六項目にわたる「改革のための具体的方策」を提言している。

文部省は臨教審の答申を受けて、生涯學習体系への移行を積極的に進めるため従来の社会教育局を改組・拡充し、生涯學習局を新設したほか、政策官庁としての機能を強化するための一連の機構改革を実施した。生涯學習局は生涯學習の振興の観点から文部省各局の関係施策を調整する機能を持つものであり、名実とも

に文部行政の筆頭局の座を占めることとなつたのである。

臨教審が生涯學習体系への移行を教育改革の大きな柱としたことは、単に社会教育の拡大とか家庭教育の振興ということではなく、学校中心の考え方を改め学校教育のあり方を根本的に見直そうとするものであり、教育のあり方について画期的な変革をもたらすものであり特筆すべきことである。臨教審がこのように教育觀を改めた背景には次のようなものがある。

第一に、我が国の近代化の過程で普及した学校教育中心の教育は受験競争の過熱や校内暴力、偏差値一辺倒の人間の評価、ひいては学歴社会を生み出した。この弊害を是正するため学校教育の自己完結的な考え方から脱却することである。第二に、所得水準の向上や自由時間の増大、高齢化の進展などにより人々は精神的文

化的充実に生きがいを求めるようになつた。ここから様々な學習意欲が生れる。このような人々の學習の要請に柔軟に対応する必要が生じた。第三に、科学技術の高度の発展による技術革新や情報化、国際化の進展は産業構造を絶えず変化させ、一度学んだ知識や過去の体験だけでは社会の変化について受けない。絶えず学び続け自らリフレッシュし自己革新を行つていかなければならない。

ところで生涯學習体系への移行によつて学校教育の役割・あり方は變るのであ

ろうか。勿論教科の基礎・基本をきっちり教えるという学校教育の本来の役割りは変わらないであろう。しかし単なる知識の詰め込みではなく将来社会人となつても

学習し得る能力、本人が主体的に学ぶ能力を身につけさせるような学校教育のあり方がより一層求められるであろう。学校教育の現場においても教育の実際のやり方について生涯學習の見地から様々な工夫改善が期待される。一方、学校施設の社会への解放も求められるであろう。ちなみに社会人の入学を認める大学は既に国立五六、公立九、私立一二九大学に及んでいる。生涯學習の時代を迎えて取り組むべき課題は山積している。要は各人が自らの意思で、いつでも、何でも、自分に適した方法で學習できる機会を持つという生涯學習の基本に立つて各省庁自治体その他社会の各分野の教育諸機関

楽しい緊張感

国語科指導員

織田 和幸

「今日は、昨日勉強したところの劇遊びをしましよう。つとむ君(主人公、おに役)は先生がやつてもいいかな。」

「いいよ。」
一年生「かくれんぼ」(物語)の授業の始まりである。女の先生は早速、つとむ君になるために帽子をかぶる。かわいいつとむ君ができあがる。

子供たちはグループごとに、一人が動物になり、他の子供たちは木や岩になつたりして、必死にその子を隠している。先生は、「みんな隠れるのが上手だな。などとつぶやきながら、グループの間を大きな動作できよろきよろ見回したり、静かに歩いたりしている。先生が近寄るたびに、「きやつ」と言つて懸命に隠している。教室は楽しい雰囲気に盛りあがつていった。しばらく遊んだ後、先生が



「さあ、みんなこっちを見て。」
と、帽子をとつてやや厳しい顔になつた。
「あつ、つとむ君が先生になつちやつた。」

岡崎の石工業は全国的に有名である。岡崎の伝統工芸士会会長の竹内博巳氏にお話を伺つた。

伝統的工芸品に指定されている灯籠は、全部で四十三品目。そのすべてをつくらるるそなが、一番お好きなのは奥之院型と呼ばれる華麗な彫刻を施したものだとのこと。彫刻を主体に修業をしてみたので、その技術が最も生かせる型を好まれるのである。制作に要する日数をお尋ねすると、

岡崎の石工業は全国的に有名である。岡崎の伝統工芸士会会長の竹内博巳氏にお話を伺つた。

伝統的工芸品に指定されている灯籠は、全部で四十三品目。そのすべてをつくらるものである。その灯籠づくりについて、岡崎の伝統工芸士会会長の竹内博巳氏に

「手づくりでつくるということは確かにいいと思う。しかし、今の日本の家庭や家庭の状況から言うと、四十三品目の灯籠は合わない訳で

灯籠づくり

竹内 博巳 氏

「素人の人に簡単にわかるように言うと、見た感じですね。柔らかみのあるつくり。鹿が鹿だとわかるようにつくる。そこが腕です。手を抜けば、製品が落ちます。」

いい材料で、いい細工をしたい。竹内がつくったと誇れるものにしたいとの職人かたぎが言葉の端々に感じられる。

竹内氏のつくられた灯籠は、北は北海道、南は沖縄の石垣島まで、文字通り日本全国から注文があり、ニューヨークへ送られたものもあるという。

竹内氏は昨年十二月に、石工の最高の技術保持者として、石匠位の称号を贈られた。石都岡崎を代表する技術者の一人として業界から認められたのである。その竹内氏にも、まだ悩みは尽きない。



「職人の根性を貫くこと。意地をもて。失敗を繰り返してはいけない。誇りをもち、誰が見ても良いものをつくれ」商売よりも、職人としての誇りを重んじ、人ととのつながりを大切にしていきたいとする氏の信念が伝わってきた。

ふるさとシリーズ

—この人に聞く—



「一人でつくれば二ヶ月半。台座の彫刻だけで二十日ぐらい、一日やつてもどちらほども進みませんよ。彫刻に熱中している時、お客さんから電話がかかってくると怒れます。話して戻ると、どこをやつていたか忘れてしまうんです」と。奥様も今では電話を取り次がないそうである。

後継者の青年たちの中では、新しい感覚に切り替えていかないと……」

覚の石彫モニメントの研究も始められているのこと。竹内氏も、彫刻家の依赖を受け、現代彫刻も手掛けていらっしゃるそうである。

しかし、いつの時代になつても言えることは、

「職人の根性を貫くこと。意地をもて。失敗を繰り返してはいけない。誇りをもち、誰が見ても良いものをつくれ」

見ながら、ゆっくりと「今日の学習は何だったかな」と尋ねた。生徒は即座に「板材の強さを調べる実験」と答えた。

先生は机下より実験具と数枚の実験材料を出し、手順を示す掛け図を掲示して説明した。以上はA校技術・家庭科授業導入段階の概要である。生徒主体で学習目標を達成した活気ある授業だった。

生徒は授業前に目標と意欲を持つていた。教具の提示で問題意識が高まつた。図と示範により実験の見通しができた。

さらに教具が大変工夫されていて、実験の誤差を少なくするには、工夫して使わねばならなかつた。その工夫点をゲーム形式の学習で発見させた。

実験の内容も材料の質、厚さ、繊維方向など選択性（三つ行うを良とする）であつた。生徒は嬉々として活動した。

授業の成立は教具にかかるところが大きい。しかし、前述のごとく他にも大切なことがあると再認識させられた。

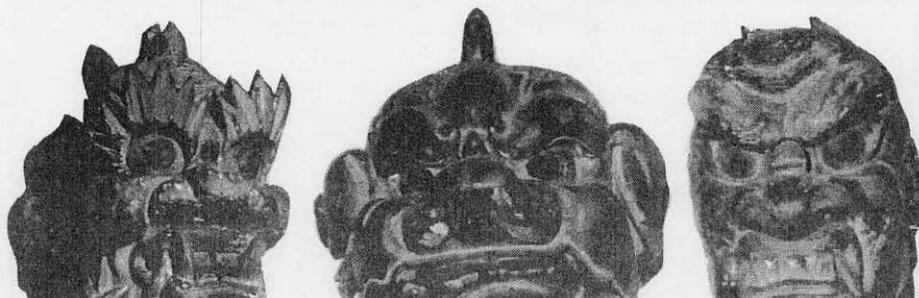
問題意識の高まり

技術家庭科指導員

石原 博文

と、ある子供が言つた。机を並べかえて、次のことばの学習に入つていった。

よい授業は、楽しさと緊張感との切り替えが大切である。



祖父面

孫面

祖母面



61

鬼祭り

飛鳥時代、天武天皇の頃、山伏の元祖役の行者が滝壺の中から金色の薬師如来を拾い上げ、お堂に安置したのが滝山寺の始まりで、鎌倉幕府の信仰と徳川幕府の庇護により大きく発展したことはよく知られている。また、たいまつを持って、お堂の周りを乱舞する「火まつり」は無形文化財にも指定されている、あまりにも有名である。

今回はそうした中で、まつりのクライマックスである「火まつり」に至る一連の過程を写真で表してみた。

タイトルバックに父面、母面がない。これは「行」をしないまま面をつけた山伏が祭りの後、面が取れず窒息死してしまい一緒に葬られたといわれているからである。従って、まつりの主役たちは今も戒律を厳格に守つてしまつりにのぞむのである。

まつりは旧正月の七日に行われることになっている。鬼になる主役たちは元旦からその日までを「行」に専念する。

その役は十二歳、二十五歳、四三歳の厄年の男から選び、それを庄屋として代々伝わる村の十二人衆が支えるのである。

(今年は大行天皇の大喪前そのため、自粛して仏前法要のみである。)

まつりの主役の鬼に選ばれた男たちは、まつりまでの7日間肉食を断ち、飲食をつつしみ、自分たちで料理して精進潔斎する。

まつりの朝、3人の男たちは滝壺から自分たちで水をくんで風呂に入る。祖母鬼が風呂をたき、祖父鬼は孫鬼の背中をなぐす。



1



2



4

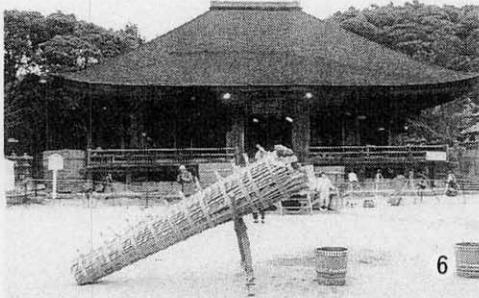
寺に代々伝わる伝統料理は、くちなしの花のつくだに、干し柿をすりつぶして作る酢の物、写真3で作った叩きごぼうなどである。



3

村人たちはやがてやってくる12人衆をもてなすため、伝統料理を準備する。ごぼうにふきんをかぶせて叩きごぼうをつくる。

まつりの初めに12人衆によって点火される大たいまつが火勢を調節するための水桶を従えて静かにその時を待っている。



6

大たいまつはまきをしにし、1年12か月にちなんで12本の縄で縛る。だから、閏年には13本となる。



5

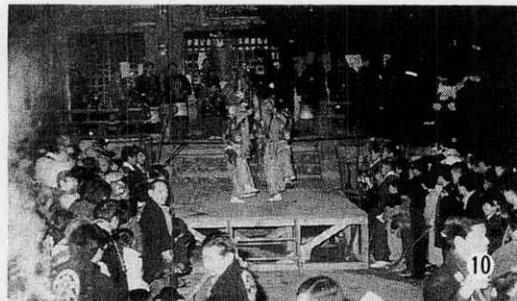


7

滝山寺住職は、三代将軍家光の時から江戸づめで、まつりの日には将軍家の使者として行列を整えて帰ってきた。

現在は飛驒のたみが建てた仁王門から寺までの行列となっているが、当時は江戸からはるばるやってきたものである。

大たいまつに火がつけられると、大きななぎなたで東と西の悪魔をきりはらう悪魔ばらいが始まる。



10

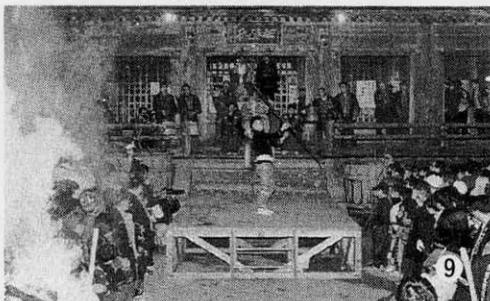


8

まつりは鬼塚供養から始まる。「行」をせずに面をかぶったため、面が取れなくなり窒息死した山伏を葬ったところである。

まつりに先立ってその鬼塚を供養をするものである。

鬼は悪いものの代名詞のようにいわれているが滝山寺の鬼は悪い鬼ではない。従って、豆まきの時でも「鬼は外」の言葉はない。

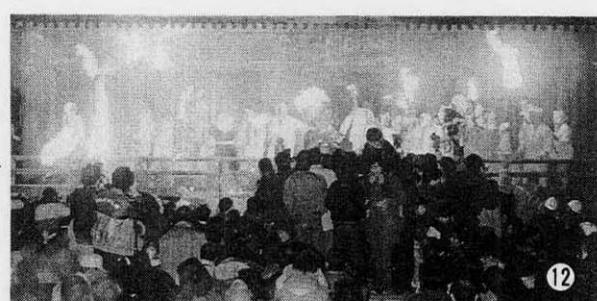


9



11

「年が明ければ春がくる。良い土打てば酒の匂い。耕す牛は良い牛で、……良い苗植えて千万石」と豊年祈願の田遊祭が行われる。



12

まつりのクライマックスは、小たいまつを手に手に持ち、鬼を抱き抱えてお堂の回廊を乱舞し駆け巡る文字どおりの火まつりである。



みんななかよく

本宿小 板倉 登

「先生、今日はなかよしドッジだからうれしいな。」
「なかとび（なかよしなわとびの略）で、二十回続けてとべたよ。」

子どもたちの元気のよい声が返ってくる。私のクラス三年一組では、昼放課に、「なかよし〇〇」として、ドッジボール、大なわ、サッカー、フットボールなどを全員でやることにしている。これは、三年生の初めの学級会で、学級目標を「みんななかよく」と決め、その一環として、一年を通してみんなでなかよく遊ぼうということになつたからである。

初めてのころは、女子の中には男子と一緒に遊ぶことに抵抗のあつた子もいたが、最近では、

みんなで楽しく遊べるようになつてきた。それとともに、初めのころ、「男子のボールは速くてこわい。」とか、

「A君は、すぐ文句を言うよ。」

「B君とC君は、よくけんかしているよ。」

と、私に言いに来ることが多くあつたが、このごろは、めつきり少なくなってきた。

また、運動嫌いで、やや登校拒否気味だったD君も、初めの頃は、元気のよい子たちの中へ入つていけず、コートの外にいたり、見ているだけの時もあつたが、友だちのさそいに応じ、みんなと遊べるようになつきた。それとともに、登校拒否の傾向もなくなり、元気に学校に来られるようになった。

今年は、前回の経験を生かし、立食パーティー形式にしよう、

クリスマスも近いからケーキを作りたい、自分たちで買いたい物もしたいと夢がふくらんだ。

十二時半、中央のテーブルに料理が並んだ。ハンバーグ、焼きそば、たこ焼き、ホットドッグ、コーンスープ、オムレツ、ポテトサラダ、それにデコレーションケーキ。さすがに壯観である。いよいよパーティー開始。「どれもおいしいけど、やっぱ自分たちで作ったのが最高。」

「みんなで協力できたら、苦労した味がするもんね。」

「もう一回やりたいな。」

パンパンのおなかをさすりながら語り合っている。

考えてみると、この子たちを

題となり、季節にあつた遊びをしようということになり、子どもたちの意識の中にも、着実に

根づいてきたこの頃である。

そして、何よりもうれしく感じるのは、授業中でもわからない

子がいると、助け合っているこ

とや、清掃・係活動等でも、男

女仲よくしていることである。

とや、清掃・係活動等でも、男

女仲よくしていることである。

今日は待ちに待った料理大会

の日である。九月に学級会で決

まり、十二月も終わりになつて

実施できた。五年生の時に第一

回をやつたのが、よほど楽しか

ったらしい。ミソは、各班で四

十六人分作らなくてはならない

が、その分、他の班の料理も全

員食べられるというところだ。

今年は、前回の経験を生かし、

立食パーティー形式にしよう、

六年三組料理大会

六北小 名倉美千子

「目が痛いよう。」

見れば四班全員涙を流してい

る。玉ねぎのみじん切りの最中

にマスクをしていく。

「先生、油忘れたあ！」

「もう一回やりたいな。」

パンパンのおなかをさすりな

ずい分食にかかわらせてきた。

「マヨネーズ、もつと入れて。」

厳しい言葉が飛び交う。さな

がらレストランの厨房のようだ。

大会、卵やじやがいも料理コン

テスト、遠足での手巻きずしパ

ーティー、縄文時代の貝の干物

作り、ヨモギ茶やドクダミ茶の

試飲、野草の天ぷら、自分で作

った弁当コンクール……。

子どもたちは、どれも大喜び

で取り組んできた。それは、み

んなといつしょに創造する樂し

さ、どんな味になつたのかと一

口食べるスリル、食べ盛りの食

欲を満たしてくれることなど魅

力がいっぱいまつてあるから

だろう。

健康にもつながり、人生の樂

しみの一つである「食」。それ

に積極的にかかわっていてける子

になつて欲しいと願っている。

ヨモギもち作り、バーベキュー

大会、卵やじやがいも料理コン

テスト、遠足での手巻きずしパ

ーティー、縄文時代の貝の干物

作り、ヨモギ茶やドクダミ茶の

試飲、野草の天ぷら、自分で作

った弁当コンクール……。



ヨモギもち作り、バーベキュー

大会、卵やじやがいも料理コン

テスト、遠足での手巻きずしパ

ーティー、縄文時代の貝の干物

作り、ヨモギ茶やドクダミ茶の

試飲、野草の天ぷら、自分で作

った弁当コンクール……。

子どもたちは、どれも大喜び

で取り組んできた。それは、み

んなといつしょに創造する樂し

さ、どんな味になつたのかと一

口食べるスリル、食べ盛りの食

欲を満たしてくれることなど魅

力がいっぱいまつてあるから

だろう。

健康にもつながり、人生の樂

しみの一つである「食」。それ

に積極的にかかわっていてける子

になつて欲しいと願っている。

ヨモギもち作り、バーベキュー

大会、卵やじやがいも料理コン

テスト、遠足での手巻きずしパ

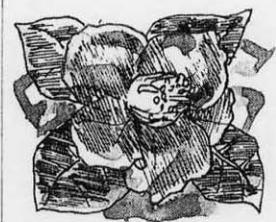
ーティー、縄文時代の貝の干物

作り、ヨモギ茶やドクダミ茶の

試飲、野草の天ぷら、自分で作

った弁当コンクール……。

お知らせ



■県特殊教育推進連盟表彰

童美丘小 志賀 忍 教諭

県特殊教育推進連盟成十周年記念した第十回県特殊教育振興大会が、一月十四日名古屋市教育センターで開催され、特殊教育の充実発展に尽くした童美丘小志賀忍教諭が表彰された。

東海中輝くV2

S 県長距離継走大会

十二月二十五日、愛知青少年公園を会場に、県下五十チームが参加した本大会において、今年も岡崎勢の活躍が光った。特に東海中学は昨年に引き続き、二連覇を成し遂げた。この快挙は本大会史上初の偉業である。

東海中は一区から三区まで他チームをひき離し独走。その後四区から六区までトップを奪われたものの、七区で再び取り返し大接戦となつた。そして、最終区の八区ではトライックに入つてからの勝負となり、残り百五メートルでラストスパートをかけ、四秒差で逃げ切つた。

なお、福岡中も一区でつまずいたものの次第に盛り返し、四位に入賞した。

△優勝 東海中学校

(五十七分五十一秒)

■県自作TPコンクールの結果

(特選) 矢作幼稚園(代表竹内富子)

河合美智代(根石小)

三木世紫枝(大樹寺小)

杉山 隆之(梅園小)

(入選十五点、佳作十六点)

年と同じ準優勝を手にした。

(成績)

選手 青山 武・山中一晃

加能基博・長坂正康

北原幹也・木本将司

鶴見康男・酒井亮治

▽四位 福岡中学校

(五十八分五十五秒)

▽二位 竜南中学校A

(二時間三十分五十八秒)

▽三位 福岡中学校A

(二時間三十二分五十九秒)

▽四位 常磐中学校A

(二時間三十四分五十九秒)

▽五位 美川中学校A

(二時間三十五分五十六秒)

▽六位 南中学校A

(二時間三十六分十秒)

(区間賞)

一区 青山 武(東海A)

二区 星野吉延(矢作A)

三区 斎藤誠之(常磐A)

四区 加能基博(東海A)

五区 石原宏保(美川A)

六区 鶴見康男(東海A)

七区 野田昇作(竜南A)

八区 星野純(竜南A)

九区 長綱純也(福岡A)

基本的な

交通安全指導の徹底を!

—青までのほんのいつとき

待つゆとりー

昨年の四月から十二月までの

交通事故は、前年度比二七%増と大幅な増加を示しています。

学年別に見ると、小学校三、四年、中学校二年生のいわゆる中学年の事故が急増しています。

交通事故発生件数(四月一日～十二月三十一日)

昨年度比	総計	自損	出会い頭	接觸	飛び出し	横断	種別	
							小学年	中年
-4	9		1	2	3	3	1	
0	9			3	5	1	2	
+11	13	3	1	4	3	2	3	
+2	6		1	2	1	2	4	
+1	6			2	3		5	
+4	7		1	1	5		6	
+14	50	3	5	14	20	8	計	
-1	4	1		2		1	1	
+2	10	1		4	4	1	2	
0	6			2	2	2	3	
+1	20	2		8	6	4	計	
+15	70	5	5	22	26	12	総計	

昨年度比	計	相手過失	追突	出会い頭	接觸	飛び出し	職員	
							横断	職員
+16	24	10	2	3	4	4	1	

原因を見ても、飛び出し等不注意によるものが半数以上を占めています。児童・生徒だけでなく、職員の交通事故も急増しています。

